関東地方整備局　荒川堤防でCO2吸収ブロックの実証実験

#東京

2022/9/2 18:48

CO2の吸収量を1年半かけて計測し、23年度中に結果をとりまとめる

関東地方整備局の荒川下流河川事務所（東京・北）は2日、大気中の二酸化炭素（CO2）を吸収するコンクリートブロックのCO2吸収量を測る実証実験を始めた。大成建設が開発した、CO2が原料の炭酸カルシウムを用いたコンクリートを使う。荒川右岸堤防にある備蓄ヤードに約1年半設置し、2023年度中に検証結果をとりまとめる。

今回実験するコンクリートは、原料に大量のCO2を排出するセメントを使わず、炭酸カルシウムを用いることで、製造段階でカーボンマイナスを達成する。製造後もCO2と化学反応して炭酸カルシウムとして固定する。

ブロックには日建工学と味の素、徳島大学が共同で開発した「環境活性コンクリート」を貼り付けた。水中に入れるとコンクリート中のアミノ酸が溶け出し、藻などの成長を促進する。

荒川下流河川事務所の田村匡弘副所長は「激甚化する災害への対策とCO2吸収が両立すれば、環境に優しい治水対策になる。量産化やコスト面で課題はあるが、効果を確認しつつ施策を進めていきたい」と話した。

CO2の吸収量を1年半かけて計測し、23年度中に結果をとりまとめる

関東地方整備局の荒川下流河川事務所（東京・北）は2日、大気中の二酸化炭素（CO2）を吸収するコンクリートブロックのCO2吸収量を測る実証実験を始めた。大成建設が開発した、CO2が原料の炭酸カルシウムを用いたコンクリートを使う。荒川右岸堤防にある備蓄ヤードに約1年半設置し、2023年度中に検証結果をとりまとめる。

今回実験するコンクリートは、原料に大量のCO2を排出するセメントを使わず、炭酸カルシウムを用いることで、製造段階でカーボンマイナスを達成する。製造後もCO2と化学反応して炭酸カルシウムとして固定する。

ブロックには日建工学と味の素、徳島大学が共同で開発した「環境活性コンクリート」を貼り付けた。水中に入れるとコンクリート中のアミノ酸が溶け出し、藻などの成長を促進する。

荒川下流河川事務所の田村匡弘副所長は「激甚化する災害への対策とCO2吸収が両立すれば、環境に優しい治水対策になる。量産化やコスト面で課題はあるが、効果を確認しつつ施策を進めていきたい」と話した。